



## 人物風土記

20周年を迎える港南クラブの代表幹事  
伊藤 美和さん

港南区版 / No.420 2013年(平成25年) 5月16日(木)号



●5月25日に、あーすぷらざで20周年記念シンポジウムを行う港南クラブの代表幹事

## 伊藤 美和さん

港南台在住 78歳

# 人物風土記

題字は  
林文字 横浜市長

## 目指すのは「GNP」

○：「先日はみんなで国 どもが集まり、港南台地区セ 営ひたち海浜公園に行つて ンターを拠点に勉強会や趣 ね、ネモフィラがとともき 味を楽しむ「港南クラブ」。 キヤリアの最後に社内ドラ れいだったんだよ。主に会 会員で行ったバス旅行の思 イフプランニングを指導す 社をリタイアしたシニアな い出を語る口調は軽やかだ。 ることになったこと。仕事

一筋で当時は退職後のこと を控え、持論は「シニアに を何も考えていなかったと よる積極的な社会参加」 振り返るが、それを機にシ 子育てや防犯・防災など地 ニアの生きがいづくりに興 域で解決すべき問題に対 味を持ち、「健康生きがいづ し、ボランティアなどシニ くりアドバイザー」の資格 アに寄せられる期待も大き も取得。ほどなくして、地 い。団塊の世代が65歳を迎 域でも活動したいと現顧問 えつつある中で「老け込む の英孝さんと仲間を募り、 のはまだ早い。今、動き出 クラブを立ち上げた。女性 せば、日本社会を変えるこ に比べ、男性は地域のつな とができる」と地域社会へ がりを持つていることが少 の参加を強く呼びかける。 なく、それが原因で退職後 ○：好きな言葉は「生涯 に引きこもってしまうケー 現役」。シニアの生きがいづ スも多い。「男性はシャイだ くり携わって20年。今も から」と語り、クラブはそ 講演や執筆活動で忙しい日 んな男性が地域社会に出 々が過す。今の生活を「生 て、仲間づくりをする受け きがいくくりが生きがい」 皿でありたいと願う。 と笑うが「次はエレクトロ ○：1993年6月のク ンに挑戦し、ジャズを1曲 ラフ設立から今年で20周 披露したいです」といっ 年。5月25日には「地域は たり。「私はいつもGNPを あなたを待っている」と 目指そうって言っているん 題して記念シンポジウムを です。『元気に、長生き、ぼ 開催する。超少子高齢社会 っくりと』です」